

奥秩父：笛吹川 東沢釜ノ沢東俣

◆日程 2018年8月18日(土)～19日(日)

◆メンバー L：須田、岡村

沢で1泊し、焚火をしてタープで眠る。そういうテーマで今回の山行は計画された。須田さんは焚火でご飯を炊くことも検討し、飯盒も持参したが、沢で泊まること自体が未経験なので、今回はガスに頼ることとし、飯盒は車に置いていくことにした。なお、多くの滝を巻いたこともあって、ザイルを使用することはなかった。

8月18日(土) 天候：晴れ

横浜を5時に出て、須田さんの車で西沢溪谷の町営駐車場へ。林道を歩き、ヌク沢出合を過ぎ、つり橋を渡ったところで右に逸れ、踏み跡を辿る。道標は「鶏冠(とさか)山」となっていたので、須田さんと地図を確認した。東沢の川原に出て、しばらくは川原歩き。鶏冠谷の出合を対岸の右手に過ぎ、右岸は大きな岩と深い淵に阻まれ、進めなくなったので、沢装備をして渡渉した。

そこからは泥の斜面を登って大きく高巻く。ここは往年の名コースと言われ、ほとんどの滝には巻き道があるのだが、どこも倒木が多く、荒れている感じだ。手元の古いエアリアマップでは、破線ルートとなっている。ただし、要所要所で人の手が入っていて、道標があったりする。高い位置から法螺ノ貝と呼ばれる深そうな淵を見た。ゴルジュで、直登は難しいだろう。

山の神という祠を過ぎると再び川原歩きになる。浅そうな場所を探して何度も渡渉しながら進んだ。探せば、ひざ下で渡れる場所が必ずあった。右から東御築江沢が、左から乙女ノ沢がナメ状の滝で出合う。どれも高度感のある岩を水が滑り下りてくる。その先で左岸がものすごく大きな切り立った一枚岩で、圧倒される。須田さんと「これはすごい」「名のある岩でないのか」と話す。今、地図で確認してみると、これがコージ岩だったのだろうか。

水は流れていないものの、傾斜のあるナメ状の縁を歩いていく箇所があって、乾いた岩にフエルト底が滑った。滑ると、とっかかりがなく、そのまま水の中に引きずり込まれそうになる。平均台を歩くように進み、最後に須田さんに引っ張ってもらった。その先で左から入る西のナメ沢は、傾斜もゆるくウォーターライダーのようだ。水は冷たく、ちょっと試す気にはならない。

釜ノ沢の二股に出て、しばらく休む。魚止ノ滝を高巻きした。直登しているパーティもいた。傾斜のあるナメで、どれくらいフリクションが効くのか、どのように登ればいいのかよくわからなかった。このあたりで「ナレイ沢←→甲武信」という道標がいくつかあったが、なぜナレイ沢を指し示しているのか、謎だった。

千畳のナメに出て、平らなナメを水がサーッと流れる。そこを歩くのは不思議な感じがして楽しかった。三段ノ滝、曲り滝を越え、西俣との分岐となる両門ノ滝を右に上がる。両門ノ滝は西俣と東俣が同じ滝つぼに水を落として出合となっていた。その先、迷い沢という沢に入らないように気を付けて歩いていたら、両門ノ滝と同じようにヤゲンの滝の下部の滝つぼに迷い沢の水が落ちていた。迷い沢との出合が先にあるので、次にヤゲンの滝と思っていたので、おかしいなあ、と考えていたら、須田さんが迷い沢の道標を見つけて、合点がいく。



その上の広河原に出て、幕営適地を探した。木々の間にロープを渡して、タープを張った。下はグランドシートがなく地面で、前後は吹き抜けだ。薪を集めて焚火をした。ウールのシャツにダウンを重ねても寒かった。焚火もそんなに盛大にはやらなかったもので、焚火があるといっても、温かいわけではなかった。19時ころにはシュラフに入った。荷物もそれなりにあって、倒木をくぐったり、泥斜面を這い上がったたりして、体力を使った一日だった。



(記：岡村)

CT：西沢溪谷駐車場 7：50 - つり橋 8：40 - 鶏冠沢出合 8：50 - 法螺貝 9：45 - 山の神 10：25 - 西のナメ沢 12：15 - 釜ノ沢出合 13：00 - 千畳のナメ 13：30 - 三段ノ滝 13：30 - 両門ノ滝 14：15 - ヤゲンの滝 14：40 - 広河原 15：00

8月19日(日) 天候：晴れ

かなり寒い夜だった。朝の気温は夏だというのに5度だった。須田さんが先に起きて焚火をおこしておいてくれたので当たった。朝食を食べて出発。濡れた靴下を履くのは躊躇したが勢いで履く。ハーネスは付けなかった。

長いこと樹林帯を歩いて広河原を抜ける。小滝が連続する箇所も樹林帯を歩いているうちに過ぎた。川原歩きよりも樹林帯を歩く方が楽だ。

2段10mの滝に出て水線の横を登っていくと、2段目の滝の真ん中が出合になっているという変化球があって、これがミズシ沢との出会いだった。ミズシ沢との出合と判断してはいたものの、その先が急に水が細くなり、枝沢に入ってしまったのではないかと心配になった。別れたミズシ沢の水量が多かったということもある。須田さんと二人で、あらためて慎重に確認した。間違いないと思えたので進むこととした。

傾斜のあるゴツゴツした感じがするナメの水線を進み、一層、水が減ってきて、右からの木賊(とくさ)沢を確認し、さらに上ると、上に白く見えるポンプ小屋があった。ポンプ小屋で沢装備を解除し、よく踏まれた道を上がって、甲武信小屋に荷物をデポした。小屋番に前述のナレイ沢のことを聞いたが、「徳さんがいないからわからない」とのことだった。

甲武信岳に登った。小屋に取って返し、木賊山を越え、戸渡尾根を徳ちゃん新道経由で下り、駐車場に戻った。

西俣に入って戻らない人がいるとのことで、ヘリが低空飛行していたり、山の中に大声で呼びかける声が響いたりしていた。



(記：岡村)

CT：広河原 6：20 - ミズシ沢出合 7：50 - 木賊沢出合 8：20 - ポンプ小屋 9：00 - 甲武信小屋 9：30 - 甲武信岳 9：55 - 甲武信小屋 10：10 - 木賊山 10：40 - 戸渡尾根 10：50 - 徳ちゃん新道と近丸新道の分岐 12：00 - 西沢溪谷駐車場 13：45

